

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0591200076		
法人名	有限会社 白岩の郷		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	秋田県仙北市角館町白岩新西野202-2		
自己評価作成日	令和3年1月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりは、田園風景に囲まれた静かで自然豊かな環境の中にあり、四季折々の風景を楽しめます。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響から交流が来ておりませんが、これまでは近くの小学校や保育園と行事等の際に交流が来ておりました。又、同様に交流は来ておりませんが、避難訓練や敬老会等の行事、運営推進会議を通じて、これまでは近隣の方々に参加や協力して頂きながら様々なイベントや介護相談等を開催して参りました。現状においても、同じ地域に住む住民の一員として支え・支えられる関係性の構築に努めております。その他、これまでは仙北市包括支援センター直営の「認知症カフェ」を開催しておりましたが、今年度は事業の中止により開催は出来てませんが認知症になっても安心して暮らせる地域作りを目指して、事業所として日々の取り組みを行っております。現在、コロナ禍ではありますが、ご利用者様はじめご家族様等が安心・安全にサービス利用が出来ますよう、また「その人らしい」毎日を過ごせますよう職員一丸となり支援に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人の3か所目のホーム。今までの施設の良い所や必要だった物を採用し、職員の意見も取り入れながら建設されている。トイレや洗面所、脱衣所は介助者が支援しやすいスペースが確保されており、廊下も広く居間から利用者の動きが把握できる見通しの良い造りとなっている。非常口及び避難スロープは車椅子利用者に配慮されたもので、防災意識の高さもかがわれた。ホーム内の管理については、掃除が行き届き、臭いは無く、明るく清潔感があつた。コロナ禍の中、ストレス軽減の為、感染対策を行った上で気分転換できるよう、又、家族との関係が途切れないよう支援する努力を行っている。コロナ禍だからを理由にせず、庭にプランターを整備したり、出掛けなくても近くで楽しめるよう工夫しながら支援している。まだ若い施設であり、みんなでレベルアップ出来るよう新しい職員に合わせ、ベテランの職員も一緒に勉強し直し、積極的に仕事ができるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はより身近に感じて貰う為、誰にでも分かりやすい言葉で作られており、事業所の玄関に掲示する事により共有や浸透に繋げている。	同法人3事業所とも同じ理念を元に日々実践している。毎月の会議にて確認し、共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練や行事等(敬老会・運営推進会議・オレンジカフェ他)へこれまでは、地域住民の方々より参加して頂いていた。又、ご利用者様との散歩時、洗濯物干しやゴミ出しの際に挨拶等も交わしており、日常に新型コロナウイルス感染症の影響がみられているが、自然に地域へ溶け込む事の出来るよう現状も努めている。	代表者自身が地域住民であり、事業への理解が得られ関係性は良好。コロナ禍により日常的な接触の機会は減少したが、避難訓練の結果を書面で報告するなど、地域とのつながりが途切れないう配慮している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	これまでは行政と連携し「認知症何でも相談所」の設置と毎月開催の「認知症カフェ」を通して相談を受け付けていた。特に「認知症カフェ」では講話(地域の専門家や事業所の職員等)により、地域貢献に繋がる取り組みを行っていた。現状、新型コロナウイルス感染症の影響により開催されていないが、認知症の理解に対する地域への働きかけについては、現状も努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症の影響、感染対策により対面による会議の開催はしていないが、行政の指導にもより会議を文書開催により実施している。内容は利用状況、行事や活動報告、研修報告の他、毎回テーマ設定し報告している。又、これまでは単に事業所からの情報発信の場だけでなく、地域の困り事等を含む情報を得る機会にもなっていた。	議題のテーマが専門的になるとわかり辛いとの意見があった。今年度はコロナ禍の為、書面での会議となったが、事前の配布資料はわかりやすい文章と解説に心掛ける等工夫した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症の影響、感染対策により対面による会議の開催はしていないが、現状も運営推進会議には行政職員が必ず参加されており、事業所の取り組み等が報告されている他、助言も頂いている。又、「認知症何でも相談所」の報告等を含めその都度、必要に応じて連携が図られている。	書面やメールでのやり取りがメインとなっている。地域包括支援センターや、福祉事務所ともこまめに連絡を取りながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の適正化の為、社内研修の年間計画により2回以上の研修を開催している。日常の業務を通じて気になることがあれば、その都度や会議等において、職員間で意見を出し合いながら取り組みをしている。	身体拘束の実施事例は無い。毎年事業所内で行う研修では細かく分野事にテーマを設けており、今年度は特に「スピーチロック」に力を入れた。声掛け、言葉掛けに気を付けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修の年間計画にも組み込んでいる。又、日常のケアにおいても職員が気付きを持ち、不適切なケアの段階で解決が出来るようにも努めており、その都度や会議等において、職員間で意見を出し合いながら取り組みをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて学ぶ他、会議等を活用して制度の理解にも努めてもいる。 相談窓口の担当者についても相談があった際には説明や紹介が出来るように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は、契約書・重要事項説明書を用いて入退居の要件や利用料金、サービスの提供内容等について説明しており、一方的な説明とならないように不安や疑問点につも尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の相談窓口、外部機関への相談窓口も明確にしている他、面会時や電話、連絡ノートを活用し把握に努めている。	毎月家族に送付している連絡ノートには、家族が書く項目もあり、意見を聞き取る工夫がされている。又、遠方で生活しているお孫さんが面会に来ることが出来ない為、携帯電話に写真を送る等、ICT技術を活用した家族交流にも取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットの会議、各ユニットの代表者が集まる管理者会議を毎月開催しており、代表も出席している。 ケアに関する内容の他、設備面や職員の勤務や休暇についても話し合っている。	代表者はユニット会議や管理者会議に参加している。毎朝新聞を届けながらホームを訪問し、夜勤者から利用者の様子や職員個々の意見や思いを聴き取っている。職員の意見も運営に活かされていることが確認された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続10年以上の職員は表彰して貰っており、可能な限り希望の休日も取得しやすいように努めている。 研修の参加や資格取得に意欲を持って取り組めるよう、昇進・昇給・資格手当等で対応している。又、介護職員等特定処遇改善加算も取得している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、毎朝各ユニットへ足を運び、ご利用者様の様子や職員の話の聞きながら、職員のケアの実際や力量の把握に努めている。 これまでは認知症介護実践者研修の他、県内外の研修に参加する機会が持てるようサポートしていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により研修の参加自体に困難がみられる現状にもあるが、引き続き人材育成に取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	これまでは、県内外の同業者による協議会には積極的に参加し、情報交換等を通じて相互に学ぶ機会が設けられていた。新型コロナウイルス感染症の影響により、現状で対面型の研修会等は開催されていないが、リモートによる研修会から他事業所の取り組みを知る事も出来ており、学びから取り入れる事により質の向上にも努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談により、ご本人様やご家族様の要望と不安な事やこれまでの生活の様子も確認する他、担当ケアマネージャーさん等からの情報提供の共有にも職員間で努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談により、これまでの経緯やご家族様等の視点から現状での困り事や課題について聴いている。又、担当ケアマネージャーさん等とも連携し情報収集に努め、関係の構築に取り組んでいる。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中で洗濯物を一緒にたたんだり、お茶を飲み会話をしたりと、ごく普通の暮らしを心掛けており、家族のような雰囲気作りに努めてもいる。職員は、ご利用者様から人生の先輩として学ぶ事も多いと感じている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の連絡ノートの交換や受診の報告等、この他に必要時の電話連絡により離れていても様子が分かるようにしており、ご利用者様の状況について共通の認識が持てるよう努めている。サービスを提供する側の視点だけではなく、ご家族様の意向にも沿えるように心掛けている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの暮らしぶりや人間関係については、ご家族様や担当ケアマネージャーさん等から情報収集し職員間で共有している。ご家族様等とは入居後においても疎遠とならないよう心掛けており、認知症により関係性が途切れないように可能な限り支援をしている。	自宅で生活していた頃と変わらぬヤクルトの訪問販売、かかりつけの病院の継続、病院での馴染みの人との交流などを受け入れていることが確認された。また、コロナ禍にあって、家族との面会の工夫、県外の家族には本人が作ったものを送るなど、関係継続に努めた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様一人ひとりの性格や他者との関わり方を観察し、これを職員間で情報共有しトラブルとならないよう支援をしている。又、価値観等の違う個人である事も忘れず、一人の時間も大切に共同生活の良さを感じて頂けるよう今後も努めて行きたい。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も円滑にサービスの利用が出来るよう関係機関とも連携し、必要に応じて情報提供や相談の支援を行っている。又、年賀状のやりとり等でこれまでの関係性を大切にもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段より思いが汲み取れるよう会話を心掛けており、職員視点ではなくご本人様はどうなのかの視点が持てるよう日々取り組んでいる。又、担当職員ともアセスメント等を協力し行っており、困難な場合も含め可能な限り本人本位となるべく努めている。	普段から生活動作や表情を見て、発言の少ない人の思いも汲み取れるよう努めている。担当制を採用しており、密接に関わり意向の把握に取り組んでいる。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時や入居時を含めご本人・ご家族様には聴き取りを行っており、この他に担当ケアマネージャーさん等よりも必要な情報を提供して貰えるよう連携を図っている。又、得た情報を職員間で共有してる。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子や気付きから心身状態等の現状を把握し、申し送りやユニット会議において情報共有に努めている。又、課題だけではなく、ご本人様の望みや強みという視点も大切に過ごせるよう心掛けてもいる。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りやユニット会議等を通して、職員個々の気付きを共有する事で多くの視点から意見の反映が出来るようにしている。又、連絡ノートによりご家族様等には現状報告をしており、これに対し意見を頂いたり、ご家族様の立場における思い等を聴けるように心掛けている。	担当が中心となり、本人の意向を把握し、ユニット会議でチームケアを念頭において取り組んでいる。コロナ禍により、目標が達成しにくくなっているが、都度計画を見直しながら今の状況に合った介護計画を立てようと考えている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にはご本人様の様子や介護計画の実施状況を記録している他、職員間における連絡帳も活用し情報共有を図っており、ご家族様等への報告や医療との連携、ケアの振り返りや評価等にも活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様が入居前に活用していた資源や、事業所周辺の資源の把握と新たに活用が出来るような資源等の情報が得られるよう、ご利用者様や事業所が地域から孤立しない為の地域交流や、地域への還元の活動を行っている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご本人・ご家族様等の希望を聴き、必要な医療が受けられるようにしている。 かかりつけ医や医療機関の相談員、薬剤師と連携する事で、ご利用者様や事業所の体制等の実情を理解して頂き、柔軟な対応や協力を得る事が出来ている。	希望により入所前からのかかりつけ医を継続している。かかりつけ薬局は、異なる医療機関からの処方薬の一包化の他、利用者個々の残薬管理にも協力してくれ誤薬防止に役立っている。また、地元の歯科医師による無償の定期往診や検査は口腔疾患の早期発見・治療が期待できる。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が出勤時にご利用者様の状態を把握出来るよう、日々の些細な気付きや相談したい事等を職員間の連絡帳等を活用して伝達している。 看護師が不在の時間帯や夜間でも電話や、必要に応じて診に来て貰う等の対応を取り、早期対応に努めている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ご利用者様やご家族様等の不安の軽減や、スムーズな治療が受けられるよう立ち合い、介護サマリー等での情報提供を行っており、医療機関の相談員やご家族様と早期退院に向けての相談や退院後の生活についても検討をしている。又、新型コロナウイルス感染症の影響により、研修会等を通じた医療機関の相談員との関係作りは現状では困難であるが、引き続き関係作りには努めて行きたい。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看取りに関する指針について、入居前にご本人様やご家族様等に説明し同意を得ている。入居後も心身状態の変化に応じてその都度、話し合いを持ち可能な限りご本人様やご家族様の意向を尊重出来るよう主治医や看護師を交え、共通認識を持って支援が出来るよう調整を行っている。	看取りは行っておらず、入所時に家族にも説明している。基本的には口からご飯を食べてもらえるうちは事業所での対応が可能で、食べられなくなった時には他施設等に移行出来るよう調整している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	計画的に職員は普通救命講習を受講している 他、主治医や看護師よりご利用者様の状態から考えられるリスクや観察のポイント、急変時の対応等についてアドバイスを貰っている。又、夜間の緊急時の連絡体制も整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画、非常災害時のマニュアルを作成し、ユニット会議や社内研修で確認や見直しを行っている。又、年2回の避難訓練では消火器の取り扱いや火災発生時の行動を訓練し手順等を再確認している。これまでは、消防署立合いによる助言や近隣住民に参加して頂いていたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響から実施が出来ていない。	今年度の避難訓練は、コロナ過もあり地域住民の参加は遠慮いただいた。水害・土砂災害の危険が少ない場所に立地しているが、万が一に備え非常食の備蓄は確保している。近隣の農家からの日常的な農産物提供も心強い。今年度は新型コロナ対策として、防護服やフェイスシールド、ヘアキャップ、くつカバー、オゾン脱臭機を設置した。	感染症対策訓練を行いたいとの意向があり、実現に期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格や考え方・価値観・行動が一人ひとり違うことを理解した上で接しており、必要であればユニット会議や日々のミーティングの中で対応について話し合う等、職員が共通認識を持って支援するよう心掛けている。	共同生活の中でも一人になれる空間を大事に支援しており、その人の居場所を作るよう配慮し、個別性のある生活を心掛けている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はご本人様の意思や自己決定を尊重する事の重要性を理解しており、言葉はもちろん、言葉にならない思いも表情や行動から読み取り支援するよう努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間等、ある程度の目安は決めているものの、ご利用者様一人ひとりの習慣や希望等に合わせた対応が出来るように努めている。又、利用して間もない方は、負担となっていないか観察し、生活リズムを整えられるようにも支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される場合については、お化粧品についても支援している。又、好みの洋服や体質(暑がりや寒がり等)については、ご本人・ご家族様にも確認しており、希望に添った支援ができるように努めている。 地域の理容店より定期的に訪問カットをして頂いており、希望があれば馴染みの理容店等の継続利用についても支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物を献立に取り入れたり、お誕生日はケーキでお祝いする等、季節や行事で内容を工夫し食事を楽しめるように考慮している。 行事等の食事作りにおいては、個々の能力に応じて行って頂く場合もある。又、後片付け等についても可能であれば一緒に行って頂く場合もあり、今後も生活を通じて能力を見極め支援をしていきたい。	職員が交代で利用者と話しながら季節に配慮し献立を作成している。利用者が雲平餅を希望した際は、ベテランの職員及び看護師の勤務日に合わせ安全対策を講じながら、食べたい物が食べられるよう配慮していた。毎月家族と外食することが楽しみな方には、地域交流室にて家族が持参したお寿司を一緒に召し上がっていただくなど、個々の対応にも積極的に取り組んでいる。又、代表者が作っている野菜を使い季節感ある食事が提供されている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎日確認し記録しており、一人ひとりの好みや食べ方等の把握にも努めている。又、個々の咀嚼・嚥下状態と食べるペースにも合わせた支援を心掛け行っている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	新型コロナウイルス感染症の影響が往診にもみられているが、協力医療機関の歯科医により口腔内の状態や義歯の調子を診てもらい、指導を受ける事により日常の口腔ケアに役立っている。 又、美味しく食事をして貰えるよう、食前に口腔機能体操等も実施している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレで排泄が出来るよう支援しており、行動等から排泄のサインを見逃さないよう援助している。又、紙パンツから綿パンツへ変更された方もおり、現状で紙オムツの使用もありません。 男性職員もいる為、ご本人様の気持ちに立って羞恥心や自尊心に配慮した対応も心掛けている。	紙パンツで入所した利用者が、トイレ誘導など適切な排泄管理により綿パンツでの日常生活を取り戻している。失敗して下着が汚れた際は、随時交換しシャワー浴等により支援している。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘等の対応については、単に便秘薬に頼るものではなく、献立に食物繊維を多く含む食材や乳製品を取り入れ、水分補給も強化している。 又、ラジオ体操やレクリエーション等を支援し活動量の確保にも努めている。 必要であれば看護師や主治医へ相談し指示を仰ぐようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴については基本的に、体調や希望に合わせて入浴が出来るよう臨機応変な支援に努めている。又、プライバシーにも配慮し希望に合わせて、可能な限りゆっくり入浴して頂いている。	毎日入浴できる状態になっている。体調に不安がある際は看護師がいる日に入浴できるよう調整し、少なくとも週2回は入浴できるようにしている。声掛けのタイミングや体力に配慮しながら、支援している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調・状況に合わせた起床・就寝・休息が出来るように支援している。室温・湿度や寝具の好み等もなるべく希望に添うように努め、日中に活動時間を確保する事により、夜には良く眠れるように支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の疾患や内服薬（お薬の説明書により確認）については職員間で共有している。内服薬の変更時は不調を上手く伝えられない方もいる事を意識し、副作用等について注意深く観察し必要に応じて薬剤師へ相談している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各種活動等も必ず全員が同じ事を行うのでは無く、その方にとっての楽しみや生活の張りとは何かを考慮し、個々の能力にも応じた支援に努めている。新型コロナウイルス感染症の影響により、外出行事はドライブ（降車しない）となっているが、室内行事を含め少しでも気分転換が図れるよう、ご利用者様の楽しみや喜びへ繋がるよう企画し支援に努めている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本来であれば、散歩や買い物等の日常的な外出、ご利用者ご家族様の希望を取り入れこれまでは外出支援に努めてきましたが、現状としては新型コロナウイルス感染症の影響により、外出をはじめ面会に対しても制限を設けるような状況にあります。この他、毎年開催していた敬老会をはじめ特に外出を伴う行事については、中止する状況にもあります。ご利用者様の主な外出は、感染対策を徹底した上での病院受診であり望む外出支援には繋がっていない現状にあります。	出来るだけ人ごみの無い所に出かけている。道の駅に行く際も、店の方は人が多い為、キャンプ場の方へ行くなど、コロナ禍の中でも外出できるよう支援している。又、ホーム周辺での花壇づくりや、昔の県南地方の写真集による回想法の時間を設けるなど、外出ができない中でも楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族様の希望を確認し必要時は自身で使用出来るように支援しているが、現状では自己管理が困難な方々でもある為、普段は事務所預りとし支払い等を援助している。 又、新型コロナウイルス感染症による影響がみられる以前には、外出時の買い物等でも、なるべく自分で支払いが出来るように配慮をしていた。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、ご利用者様の目にも付き手の届く場所にあり、希望があればいつでも使用が出来るようにしている。 現状、手紙やハガキ等の希望者はおりませんが、希望時には支援して行きたい。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は自動換気システムにより随時換気されている。又、新型コロナウイルス感染症対策としてエアバスター(オゾン脱臭機)を設置している。この他、リビング・廊下・浴室・トイレ等の温度差が極力少なく出来るようにも努めている。 音や光等、ご利用者様の視点に立った環境作りを心掛けており、リビングや廊下・居室等については季節感のある装飾や掲示物で四季の移ろいを演出するように工夫している。	行事担当職員が、利用者と一緒に季節を感じる事が出来るよう掲示物を作成し飾っている。 24時間自動換気されている他、オゾン脱臭機を設置し、感染症対策もしっかりしている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル、椅子の配置を工夫したり、外が見える場所、テレビが見やすい場所等と好きな位置で馴染みの方と思い思いに過ごせるように支援している。又、居室にもテレビを設置する事が出来るようになっており、一人でゆっくり見たい方は居室にて過ごされてもいる。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年愛用の物や思い出の物・家族との写真や趣味の品物等、ご本人様が安心して過ごせるようにご家族様とも相談し持ち込んで頂いている。 又、可能な限り入居前に居室を見て頂く事により、どのような物が持ち込み出来るか検討して頂けるようにも支援している。	その時のADLに合わせた環境整備に努めている。その人の行動を狭めてしまう事が無いよう、配慮しながら居室を作っている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ・浴室・洗面所には、ご自分の力を使いながら安全に移動や動作が行えるよう手摺り等が設置されている。 トイレや居室前には目線に合わせて名前や分かり易い表示を付けたりと、目印を付ける等の支援も行っている。		